

1. 目的

区市町村が実施するがん検診事業を各種指標に基づき評価し、課題を明らかにするとともに、区市町村にフィードバックすることで、自治体の現状認識・改善に向けた取組を促し、東京都全体のがん検診の質を高めることを目的とする。

2. 調査概要

都内62自治体における、がん検診の①実施状況、②プロセス指標、③市区町村用チェックリスト実施状況について調査する。

3. 調査内容

①実施状況調査	②プロセス指標調査	③市区町村用チェックリスト実施状況調査
<p>指針で推奨される検診の実施状況および指針外の検診実施状況の把握</p> <p>実施時期 令和5年10月</p> <p>調査対象年度 令和5年度実施検診分</p> <p>調査内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ●指針に沿ったがん種（胃・肺・大腸・子宮頸・乳。以下「5がん」という。）・検査方法・対象年齢・検診間隔の検診を実施しているか。 ●指針外の検査方法・対象年齢・検診間隔・がん種の検診を実施しているか。 	<p>がん検診の「プロセス指標」の把握</p> <p>実施時期 ①と同時実施</p> <p>調査対象年度・内容</p> <p><令和4年度検診分> 検診受診率</p> <p><令和3年度検診分> 検診受診率、要精検率、精検受診率、精検未受診率、精検未把握率 がん発見率、陽性反応適中度</p>	<p>がん検診の「技術・体制指標」の把握 ※国立がん研究センターから依頼を受け、都が区市町村の調査、集計、回答内容についての聞き取りを行う。</p> <p>実施時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行調査 令和5年11月 ・本調査 令和6年1月 <p>調査対象年度・内容</p> <p><令和5年度検診分> がん検診実施体制整備に関する調査</p> <p><令和3年度検診分> プロセス指標把握に関する調査</p>

4. 結果の公表

(1) 公表方法

保健医療局ホームページ：とうきょう健康ステーション「受けよう！がん検診」へ下記内容を掲載
<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kensui/gan/>

(2) 公表時期

令和6年4～5月頃

(3) 公表内容

①実施状況調査

以下を区市町村別・がん種別に公表
詳細は資料2-4

<5がんについて>

- ・科学的根拠に基づく検診の遵守状況
- ・指針外の対象者、検査方法の有無等

<5がん以外のがん種について>

- ・検診の実施状況

②プロセス指標調査

以下を区市町村別・がん種別に発表
詳細は資料2-5

<東京都の状況>

- ・がん検診受診率の推移
- ・プロセス指標の推移
- ・精度管理評価事業結果シート
(都内の平均)

<区市町村別の状況>

- ・各プロセス指標に関する棒グラフ、
レーダーチャート

③市区町村用チェックリスト実施状況調査

以下を区市町村別・がん種別に発表
詳細は資料3

- ・がん部会において市区町村用チェックリストの実施状況の評価基準
(A B C D E Zの6段階評価)を設定
- ・がん種別・検診方式別、
各区市町村の実施率順の棒グラフ
- ・調査回答一覧

5. 結果の活用

調査結果を様々な形で区市町村支援に活用する

・がん部会通知の発出

科学的根拠に基づくがん検診の実施、及び
プロセス指標についてがん部会からの意見を通知

・チェックリスト通知の発出

チェックリスト実施状況をA B C D E Zの6段階で
評価したものを各自治体へ通知

・区市町村訪問

指針の遵守状況、プロセス指標、チェックリスト実施率等をもとに訪問自治体を選定。精度管理向上を目的として、助言・指導を行う。

・がん検診事業担当者連絡会

調査結果をもとに、がん検診の精度管理をテーマとした研修を企画。

【参考①】プロセス指標の算出方法について

●本事業におけるプロセス指標の算出方法は、以下の通り。

プロセス指標	指標の意味	算出方法
要精検率	検診において、精密検査の対象者が適切に選ばれているかを測る指標	要精検者数/受診者数×100
精検受診率	要精検者が実際に精密検査を受診したかを測る指標	精検受診者数/要精検者数×100
精検未受診率	要精検者が実際に精密検査を受診したかを測る指標	未受診者数/要精検者数×100
精検未把握率	精検受診の有無や精検結果が、適切に把握されたかを測る指標	未把握者数/要精検者数×100
がん発見率	その検診において、適正な頻度でがんを発見できたかを測る指標	がんであった者/受診者数×100
陽性反応的中度	その検診において、効率よくがんが発見されたかを測る指標 (検診の精度を測る指標)	がんであった者/要精検者数×100

【参考②】 がん検診精度管理評価事業における受診率の算出方法について

【受診率の算出方法】

$$\text{受診率} = \frac{(\text{当該年度受診者数}) + (\text{前年度受診者数}^*) - (\text{2年連続受診者数}^*)}{(\text{住民基本台帳人口}) \times (\text{対象人口率})}$$

※ 「*」は受診間隔が2年に1回の検診に適用

●対象人口率について

区市町村が実施するがん検診は、他に受診機会（職場で事業主等が実施する検診など）がない者を主な対象者としているため、都では、5年に1度行う「健康増進法に基づくがん検診の対象人口率等調査」で得られた結果に基づき、区市町村の検診以外の受診機会がある者や、入院・長期出張等で事実上検診が受診できなかった者を除いた都民を「区市町村が実施するがん検診の対象者」とみなし、その割合を「対象人口率」として算出し、区市町村別がん検診受診率の算出に活用している。

<対象人口率（都全域）>

	胃	肺	大腸	子宮頸	乳	備考
H27年度調査	57.9%	64.8%	61.3%	64.2%	65.5%	～R1受診率に使用
R2年度調査	51.9%	55.3%	55.6%	57.8%	61.1%	R2～受診率に使用
増減（H27-R2）	△6.0pt	△9.5pt	△5.7pt	△6.4pt	△4.4pt	

令和2年度調査の結果、前回調査（平成27年度）と比較して対象人口率が減少したことに伴い、対象人口率に基づき算出する対象人口も減少する。

そのため、令和元年度以前と令和2年度以降を比較した際、受診者数が減少していても、受診率が増加することがある。